

「農業と観光に関する検討部会」第2回会議結果

令和6年9月30日 18時30分
今井地区地域づくりセンター 2階会議室

1 出席者
21名

2 懇談事項

- (1) 体験事業のアイデア出し
- (2) 令和6年秋「先ずはやる」試験的ツアーの内容について

3 会議結果の概要

- (1) 前回の会議以降、各農業者や関係機関が構想した農業体験ツアーについてアイデアを出し合い、具体的に9つの案が提示された。
- (2) 主要なターゲットは誰か、商品としての売りは何か。議論の結果、ターゲットは「子ども・両親」、「大人（都会）の女性」がメインであり、売りは農村風景と農業者自身（おっちゃん、おばちゃん）のキャラクター・ストーリーに集約された。
- (3) ふじりんごの収穫と農業者との交流会（BBQ）の日帰りプランを各関係者の日程調整のうえ、令和6年10月30日（水）に「先ずはやる」ことが決定した。

4 今後の予定

- (1) 令和6年10月30日（水）の試験的農業体験ツアーの実施
- (2) 実施後の反省点、課題等の整理

5 発言要旨（発言者個人の特定を避けるため、要約しています。）

(1) 具体的なプラン案について（提案順）

プラン名	概要
① フォトコンテスト	春夏秋冬、昼だけでなく夜も朝も、様々な角度から
② 農家の生活密着	知られざる農家の生活（特に冬、剪定作業など）
③ ロゲイニング	地図を利用して目的地めぐりゲームを開催する
④ 加工体験・見学	ジャム作りや今井道の駅の加工所見学
⑤ サッカー観戦とセット	山雅の試合日程に合わせて季節の農業体験を提供
⑥ 稲+ブドウ体験	9月であれば、セットで2時間の体験が提供可能
⑦ MYりんご収穫	シールやラベルを張った「自分だけの」りんご収穫
⑧ 畑でBBQ	主に農業者との交流を目的とするもの
⑨ 空き家ゲストハウス	農家住宅の空き家をゲストハウス化する

※ 上記プランに加え、移動手段をシェアサイクルとする、昼食や休憩を古民家でとる、収穫場所を体験者が決めることができる等のアイデアも提示された。

(2) ターゲットにする層と、何が「売り」なのかについて

主要なターゲットとして挙げた層は、以下のとおり。

- 子育て世帯（子ども＋両親）
- 富裕層
- 大人を楽しませる
- 都会の女子（田舎の風景に「癒し」を求めて来る）

何が「売り」なのかについて議論に上がった内容は、以下のとおり。

- いわゆる農家の「おっちゃん・おばちゃん自身」が面白い（その人との交流）
- 観光地ではない今井の素材そのもの（商品化されていない生の素材、本物感）※
※ 消費者はコマーシャライズされた商品に飽きてきている。素朴な風景や職人のゴツゴツした手の写真などが最近SNS等でも人気がある。
- 体験プランに農家の「顔写真」を掲載すべき（顔が見える安心感）
- 田園風景、農産物が並ぶ圃場の風景そのもの

(3) 試験的ツアーの実施について

先ずやってみないことには、各自の役割分担や課題などが見えてこない。これからサンふじの収穫に合わせて「先ずはやってみる」。そこからプランをブラッシュアップしていくことが現実的である。

誰を呼ぶか…詳細は行政で決める。会議中に上がった案は、以下のとおり。

- 大学生（地域研究などを行っている学生を巻き込む）
- 他の地域の農業者
- 観光部門の客（プロの視点からの意見や提案を期待）

方向性としては、今回は参加費を徴収せず、アンケートなどで率直な意見を求める。
人数としては、10～15名程度を想定。幅広い年齢層で、プロのモニターも含める。

何をやるか…詳細は農業者で決める。

- りんご収穫（時期的にサンふじ、名月）
- 昼食としてBBQ
- 午後は農産物販売

方向性としては、シンプルに欲張らず。宿泊ではなく日帰り短時間で実施する。

いつやるか…令和6年10月30日（水）に決定